

地球の周囲を周回する人工衛星は、今やおびただしい数です。その中でも国際宇宙ステーション（ISS）は最大のもので、太陽電池パネルを合わせると、サッカー場ほどの大きさがあります。ISS そのものはほとんど自力では光を發しませんので、真夜中には地上からは見えません。しかし、日没直後や日の出直前の「地上はまだ暗く」「上空には太陽光が当たっている」という時間帯には、金星ぐらいの明るさに見え、肉眼でも容易に観望できます。そのほかの人工衛星…たとえば中国の宇宙ステーションなども、肉眼で容易に観望可能です。

無数にある人工衛星の中でも、近年特に注目されているのが「スターリンク衛星」です。数千機の衛星で地球上空を囲み、全地球の通信（たとえばインターネット）を可能にすることを目的としています。これだけたくさんの衛星を1機ずつ打ち上げると、大変な費用と時間を要するので、スターリンク衛星は一度にたくさんの衛星を打ち上げて、地球軌道上で展開（拡散）する方法をとっています。打ち上げ直後は、まだ衛星間の実距離が狭く、まるで夜行列車のように連なって見えるので「スターリンク・トレイン」と呼ばれています。

先日、北軽井沢でその「夜行列車」を初めて見ることができました。十数機が連なって、次々と飛翔する姿は圧巻でした。打ち上げから10日以上経っていたので、衛星間の距離はかなり離れていましたが、1枚の写真に3機の衛星の光軌が写っていました。一番左と真ん中の衛星の間に写っている「菱形の星座」は「いるか座」です。今後も打ち上げが計画されているので、もっとまとめて撮影したいです。

(2023年10月中旬／北軽井沢)

